

所属・資格 体育学科・准教授

申請者氏名 吉田 明子

研究課題		ダンスコンクール参加者の性差および活動環境に関する基礎的研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>2012年のダンス必修化を契機に、子どもたち対象のリズムダンスのイベントは増加しており、出場者数も増加傾向にある。申請者が運営サポートとして関わっている小中学生を対象とした全国規模のダンスコンクール（以下、本コンクール）も2013年から開催されており、その一つにあたる。初開催からの数年間は、ダンス必修化による初期の波及効果が現れやすいわけて重要な時期である。しかし、こうしたダンス必修化草創期にあたる時期を研究対象として、リズムダンス人口の変動やリズムダンスの社会的活動を取り上げて定量的なデータをまとめている研究は少ない。</p> <p>そこで本研究では、本コンクールの主催者側と契約を締結した上で、本コンクールの過去6年（2013年から2018年）および2019年、2020年、2021年の出場者情報について、匿名化されたデータを交付いただき、出場者の実態を経年的に把握することを目的とする。併せて2019年から2021年の出場チームの代表者にダンス活動に関するアンケート調査を実施し、ダンス必修化草創期における子どものダンス文化の現状と課題を捉えること目的とする。</p>
	研究の 結果	<p>現時点では、主催者側から交付を受けた6年間の匿名化された出場者データから、出場者の人数、性別、学年、各団体の学年構成、居住地、各団体の人数構成、出場団体名、出場部門、出場回数、代表者の性別、年齢について、それぞれのデータ集計および基礎的分析を行っている最中である。</p> <p>学校教育におけるダンスは、長年女子の種目として根付いてきたが、ダンス必修化およびリズムダンスの流行によって、男子もダンスに参加しやすい環境になってきていると考えられる。そうした見解が、本コンクールの出場者の性差に関する分析から見出せるのか、分析を進めている。また、出場者データから、ダンスコンクールの出場に生じる地域差や連続出場の有無を捉えるなどの多面的な分析を進めている。</p>
	研究の 考察 ・ 反省	<p>本年度は、研究を進めるにあたって基盤を整える1年となった。成果発表までには至らなかったものの、主催者側との契約締結によって、6年間の出場者約15000人の匿名化された基礎的なデータ得ることができた。</p> <p>また、出場者データでは把握することのできないダンスの活動環境に関する内容について、実際に本コンクールにおいてアンケートを実施することができた。こちらも併せて経年的に調査し、ダンス活動の環境や指導者が抱える問題点等について、ダンス活動の発展や今後の更なる子どもたちのダンス文化形成に必要な課題を明らかにしていきたい。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	本年度は、主催者側との契約締結および本学の研究倫理審査と研究基盤を整え、匿名化された出場者データの整理とアンケート実施および集計を中心に行ってきた。これらの研究成果の発表および成果物は次年度以降に発表予定である。	